

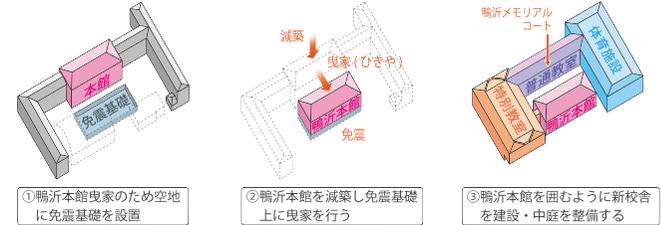
1 多様なニーズに応える教育活動を実現する新しい施設



私たちは、生徒たちが高校生活をいきいきと過ごせるよう、多様な学習環境やコモンスペースなどを随所に設けた高校を提案します。鴨沂高校の教育方針である「自発的・積極的に学習する態度を養い、基礎学力を培い、思考力を養成する」ことができる学校づくりを行います。

鴨沂高校の伝統を守る ~ 本館の曳家(ひきや)保存と鴨沂メモリアルコート ~

- 現本館は伝統ある鴨沂高校の歴史を刻んだ象徴です。現物を保存利用することが、長い歴史・記憶の継承につながると考えます。現本館を「鴨沂本館」として曳家保存することで、卒業生たちの誇りや思いを未来に残していきます。
- 曳家した鴨沂本館を囲むように、コの字型の新校舎を設け、これらの校舎に囲まれた中庭を「鴨沂メモリアルコート」として整備します。

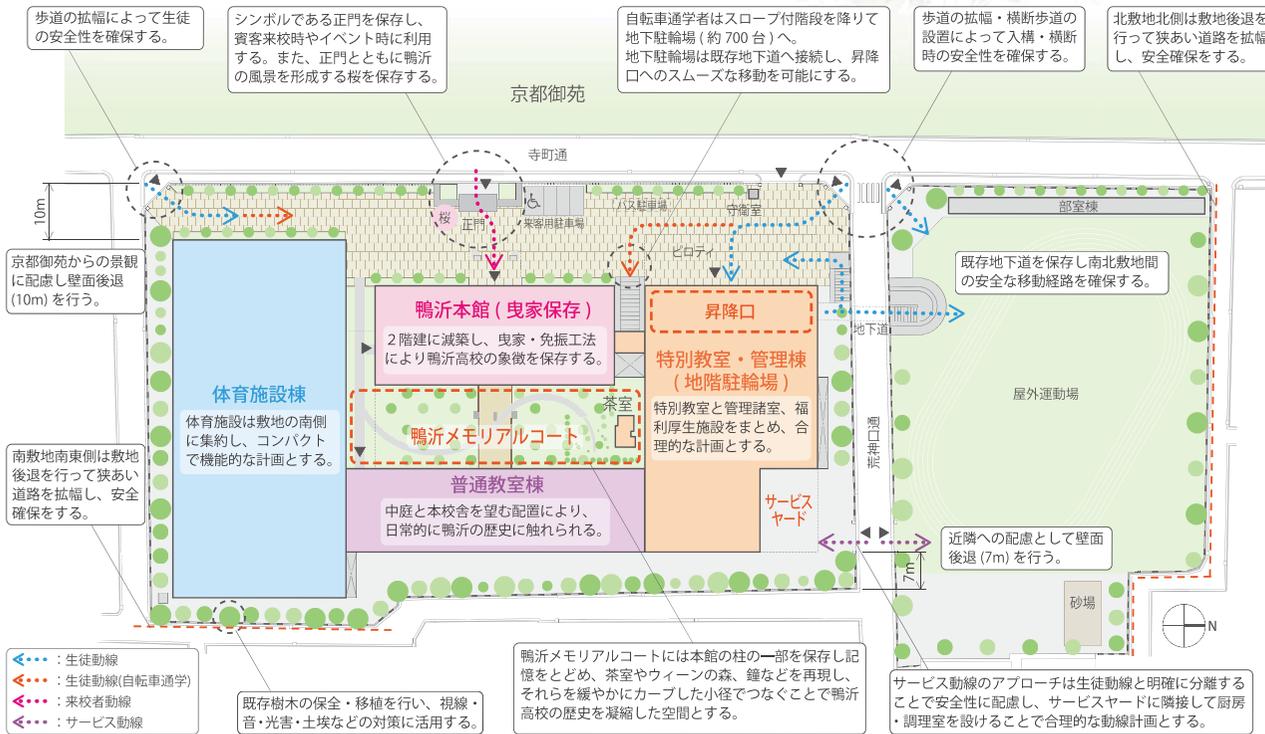


まちにひらく ~ 地域開放とメモリアル展示 ~

- 鴨沂本館の講堂・図書室(メディアステーション)、茶室や和室、体育施設、屋外運動場などは、地域開放が可能な計画を行い、地域に愛される学校をつくります。
- ギャラリーをエントランス周辺に設置し、鴨沂高校のメモリアルな資料や美術品を展示することで、生徒や来校者が日常的に鴨沂高校の伝統を感じられる空間とします。

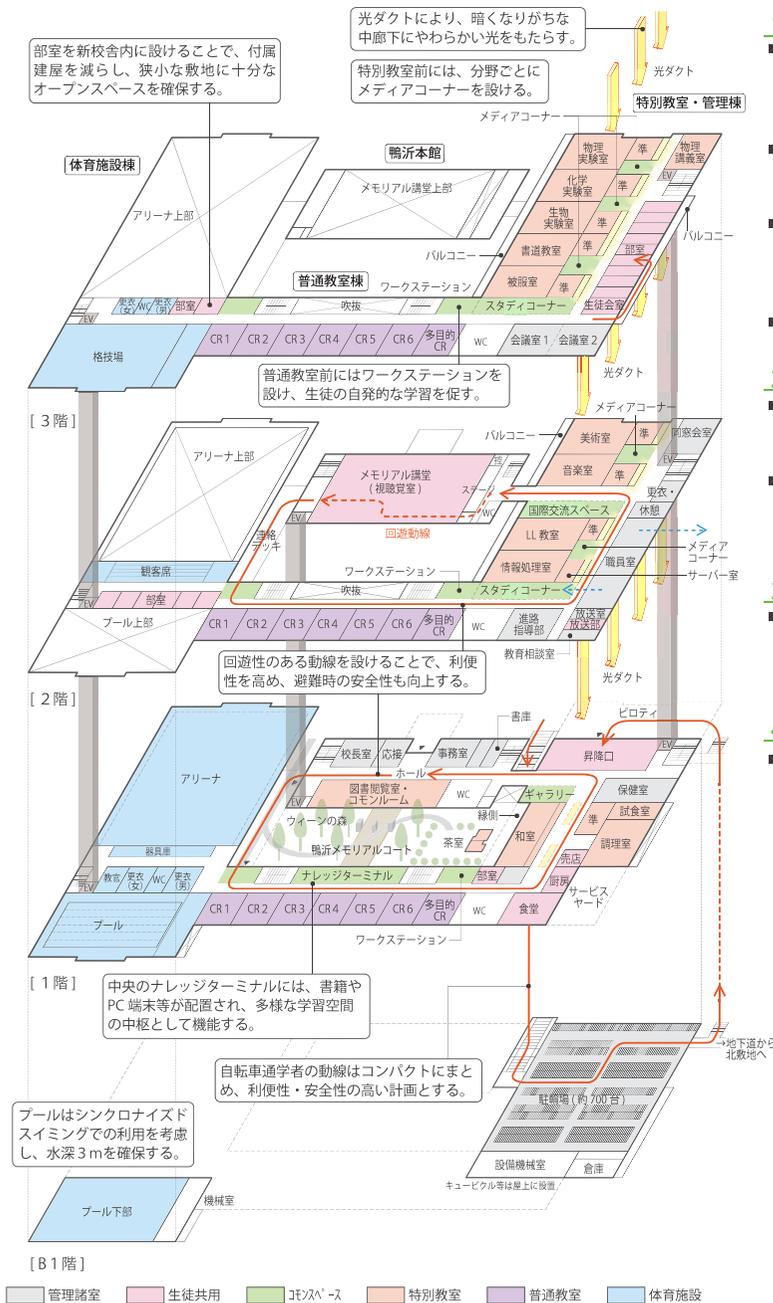
コンパクトで機能的な計画 ~ 狭小敷地の有効活用と合理的な計画 ~

- 二足制に対応した昇降口を、屋外運動場および既存地下道に近い北西部に設け、スムーズな動線を可能にします。
- 生徒の8~9割が利用する駐輪場は昇降口に近い北側校舎の地下スペースに配置し、コンパクトな動線を可能にします。敷地内に分散しがちな駐輪場を地下にまとめることで、狭小敷地を有効に利用でき、敷地周辺の景観形成にも大きく寄与します。
- 普通教室は新校舎中央に配置し、コンパクトな動線を実現します。また、鴨沂本館と新校舎をつなぐ回遊性のある動線を設け、利便性の高い計画とします。
- アリーナ、武道スペース、室内温水プールといった体育施設を一体的かつ機能的にまとめて構成します。
- 屋外運動場は北敷地に整備し、屋外で活動するクラブの部室や用具庫は、利便性に配慮して北敷地内に配置します。



1 多様なニーズに応える教育活動を実現する新しい施設

多様な教育活動を可能にする ~ 学習意欲を刺激するさまざまなコモンスペースを織込む ~



1 自発的な学習を誘発するコモンスペース

- 1階中央にはコモンスペースの中核を担うナレッジターミナルを配して書籍やPC端末を設け、生徒の自発的な学習を促します。さらに各階のワークステーションで、自主学習の展開や生徒同士の交流を促進します。
- スタディコーナーを職員室前に設けることで、教員に気軽に質問ができるとともに、教員との交流を促進する場としても機能します。
- 特別教室前には、分野ごとに京文化・国際交流・サイエンス・アートなどのメディアコーナーを設け、教材展示や学習発表の場とすることで、各分野への関心を引き、生徒の学習意欲を高めます。
- 普通教室には可動間仕切を設け、少人数講座にも対応できるようにします。

2 豊かな国際交流を推進する空間づくり

- 国際交流スペースを2階のLL教室横に配置することで、鴨沂高校の特色化推進のテーマである「国際社会に貢献する京都人の育成」の推進に寄与します。
- 茶室を鴨沂メモリアルコートに復元し、和室を同コートに面して内装復元して配置することで、鴨沂の歴史を語り継ぐ空間として再生します。京文化に触れる国際交流など、多様な利用ができる計画とします。

3 多様な活動の拠点となるメモリアル講堂

- 講堂は建設当時の姿に復元するとともに、舞台・照明・音響装置などを整備し、芸術系・文化系の様々な活動が可能な対応を行います。芸術系特別教室や文化系部室などからもアプローチしやすい平面計画とします。

4 メディアステーションの拠点づくり

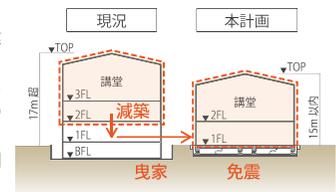
- 図書閲覧室はメディアステーションとして利便性の高い鴨沂本館1階の、鴨沂メモリアルコートに面した位置に配置し、ICT教育の中核機能として構成します。コモニウムを併設し、また鴨沂メモリアルコートに屋外テラスを設置し、多様な利用を可能にします。

2 既存校舎等の歴史的・文化的価値の継承

鴨沂高校の顔である本館を、「鴨沂本館」として保存します。現行法規の遵守・耐震性や機能性を確保するため、「減築・曳家・免震」などの建設技術を結集し、鴨沂高校の顔を守ることで、歴史と文化を未来へとつないでいきます。

鴨沂高校の顔を守る ~ 減築・曳家・免震の建設技術を結集する ~

- すべての校舎を解体撤去して新築するスクラップ・アンド・ビルドは、「鴨沂の伝統を受け継ぐ」という観点からふさわしい方法ではないと考えます。私たちは、現行法規を遵守しつつ、鴨沂高校の歴史を刻んだ建築物を後世に残してゆく方法を提案します。
- 本館中央部分は京都御苑に向けて正面性の高い建築であり、「鴨沂本館」として曳家保存します。建築物の高さは現行法規の制限である15m以下とするため、2階床から下部を減築し、地上3階建から2階建にします。
- 現行法規の耐震性を確保するため、免震構造とします。免震基礎をあらかじめ空地に施工し、その上に曳家します。基本計画段階で、3階建のままでの曳家も検討し、法的な手続き(高度地区の特例許可)や構造上の問題、工事費等の比較を行います。



メモリアルを未来に残す ~ 記憶を保存し、活用する ~

- 京都御苑と曳家保存する鴨沂本館を背景に、新校舎をコの字型に配置し中庭を設け、「鴨沂メモリアルコート」として整備します。茶室の復元や、既存樹木の移植によりウィーンの森を再現することで、記憶の保存・活用を図ります。また、コートに面して普通教室を設け、すべての生徒が日常的にメモリアルに触れることができ、愛校意識を高めます。
- 鴨沂本館の外観や講堂・校長室・階段などの内装は、耐久性に問題がないかを検証した上で、各部ディテールにわたり忠実な再現を行います。和室についても内部造作材を再構築し、内装復元を行います。実用的に利用できるよう、設備を強化し利便性を高めます。茶室は鴨沂メモリアルコートに移築し、露地庭や外観の復元および化粧根裏などを再現します。
- 鴨沂本館の構造体に生じているひび割れの補修や、経年によるコンクリートの中性化が進行している場合には、アルカリ付与を行うなど、耐久性にも配慮した計画を行います。また、地下道および上屋についても同様に補修を施し、屋外運動場との連絡通路としての利用と、新たに設ける地下駐輪場への出入口として、積極的に活用します。
- 鴨沂本館と新校舎との接続部にはエキスパンション・ジョイントを設け、構造的に明確に切り離すことで、架構の安定性に配慮します。
- 正門は現位置に保存することで変わらぬ景観を残し、賓客の来校時やイベント開催時に使用します。また、木部アク洗い技術によって美装化を行います。



3 環境・災害対応、安心・安全な教育環境

環境学習型エコスクールを目指して

■私たちは、多くの京都市内公共施設の設計経験を活かし、鴨沂高校の歴史・文化を継承しながら、省エネルギーかつ快適な学習環境を整備します。

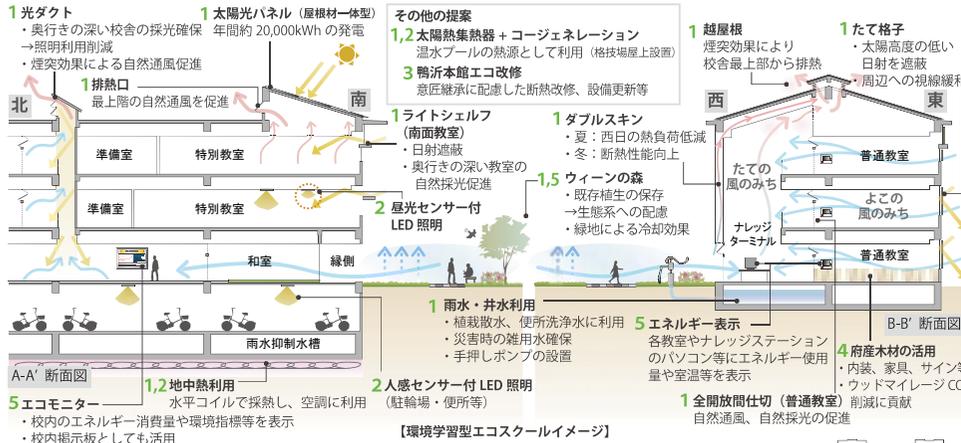
- 1 自然エネルギーの活用**
京都の太陽、風、雨などの自然エネルギーを活用し、快適な学習環境を確保します。
- 2 省エネ設備システム**
照明・空調・衛生器具等は省エネ、節水型、センサー対応により確実に無駄をなくします。
- 3 既存部のエコ改修**
既存部は高断熱化・設備更新等のエコ改修を行い、利活用保存による長寿命化を図ります。
- 4 府内産木材の活用**
府内産材を内装や既存部の補修に活用し、京都府のウッドマイレージCO2施策に貢献します。
- 5 環境マインドの育成**
環境教育につながる校舎整備により、生徒の地球環境に配慮する意識(環境マインド)を育てます。

消費エネルギーの削減

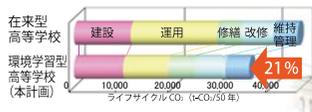
既存校舎の長寿化

京都府の資源活用

環境に優しいづくり



■環境学習型エコスクールの効果
これらの取組により、年間のCO₂排出量を約48%、光熱水費を約900万円削減、50年間のLCCO₂を約21% (約1万t-CO₂)、LCCを約15億円(約8%)削減可能と試算されます。



安心・安全な学校づくり

- 1 耐震性の高い校舎づくり**
■新校舎は耐震性能(II類)を確保した構造計画を行います。曳家保存を行う鴨沂本館は免震により耐震性を確保します。曳家保存を行う鴨沂本館は免震基礎を設け、曳屋を行います。曳家保存を行う鴨沂本館の設備・什器類や講堂の天井は耐震化を図ります。
- 2 安全な通学環境整備**
■安全に充分配慮した通学環境を整えます。自転車通学者と徒歩通学者を安全かつスムーズに敷地に導くため、北西角・南西角を隅切りすることで歩道を広げ、新たな校門を設けます。■寺町通と荒神口通の交差点には横断歩道を設置し、南北敷地間の地上における横断時の安全性にも配慮します。自転車置場は全て特別教室・管理棟の地下に集約し、緩やかなスロープ付き階段を設けます。
- 3 バリアフリーの徹底**
■敷地導入部から校舎内すべてをバリアフリーとします。エレベータは地域開放や日常の利便性を考慮して、新校舎に2台、鴨沂本館に1台設置します。
- 4 セキュリティを考慮した施設構成**
■地域開放する施設は、アプローチのしやすさを考慮して寺町通側に配置し、セキュリティエリアを形成を考慮します。また、セキュリティエリアは段階的なレベル設定を検討します。■職員室は北側校舎2階に設け、校舎内を見通しやすい配置とするとともに、屋外運動場の安全確認もできる計画とします。
- 5 近隣への配慮**
■京都御所からの景観、近隣住宅の住環境に配慮し、既存樹木の保全・移植を行うとともに、敷地外周部には多くの植栽を施し、視線・音・光害・土埃などの対策を行います。

災害時の地域拠点となる施設づくり

- 1 地域の避難場所としての配慮**
■体育館内のアリーナ・武道場を災害発生時における地域の避難場所とします。外部に面して庇付きの出入り口を設け、円滑な受入ができるようにします。■南敷地の西側は、屋外スペースを確保し、災害時の防災広場として活用します。緊急車両や救護物資などの車両の寄り付きのしやすい計画とします。■地震時の液状化対策として、建物と西側広場部分は地盤改良することで舗装、インフラの安定を図ります。■スムーズに食事を提供できるように調理実習室や学生食堂・厨房は1階に設けます。■避難場所となる体育館エリアと教室エリアとは明確にゾーニングを行い、学校教育の早期再開を可能にします。■洪水対策として、雨水抑制水槽を設けます。浸水に配慮し地下階には居室を設けない計画とします。■外装材の耐風圧性能の確保や室外機の固定など、防風対策により、飛散・転倒を防ぎます。
- 2 災害時のライフラインの確保**
■太陽光発電装置・自家発電機・電源車からの電源供給の整備・蓄電池を提案します。■受水槽と給排水の耐震化、受水槽容量確保、雨水の中水利用や温水プールの浄化による上水利用を行います。避難所である体育館への給水車の容易な寄り付きが可能な計画とします。■ガス配管の耐震化、代替燃料(プロパン)の設置、カセットコンロなどの備蓄を提案します。■災害時優先電話や地域防災無線の設置、避難スペースでのT V・無線LAN・モバイル機器対応などを提案します。

